

## 編集後記

- 仮称“きび”考創刊号発行から3ヶ月が経過しました。当初手作り冊子ですから主な皆様にとの思いで100冊印刷しましたが、以外に好評で昨年の当会設立記念講演会に御出で頂いた120名全員にお届けすることになり増刷りいたし、最終的には300部近くになりました。

お届け先の中から一部を紹介させていただきます。

『・・・御恵贈いただきました資料は、図書館資料として広く県民の方々に御利用いただいております。今後とも、引き続き宜しくお願い申し上げます。』

記

「仮称“きび”考」

平成22年9月1日 岡山県立図書館 館長 西山 猛

- 仮称“きび”考2010(22)秋季号をお届けします。皆様のお手許に届く頃には、記録的な暑い夏であった吉備の里々にも黄金(こがね)の稲穂が満ち溢れて実りの秋を迎えていることでしょう。猛暑の中で寄稿戴きました皆様には編集者として御礼申し上げます。特に陶芸家の木村玉舟氏、延原勝志氏には備前焼の作家として仕込みの最多忙期と重なり大変な労作を寄稿戴きました。また井上秀男氏はこの会の生まれた備前市伊部にまつわる古文書を400年の眠りの中から、現代の我々に太閤秀吉や当代一流の豪商・文人の交流を再現された力作です。亡き父上の収集された貴重な資料が、これからもどんな形で飛び出してくるのか皆様も楽しみにして下さい。

不肖編者(山崎)も弥生期の吉備をテーマに仮説2題を提起しました。考古学フアンの一人として専門家の踏み出せない大胆な仮説ですが、当の本人はそれを信じる吉備人のつもりです。愚笑下さい。前号に引き続き丸谷憲二氏の吉備の語源は黄蘗今回8ページの力作です。丸谷氏はこの夏も精力的に取材活動を展開なさっています。8月13日には靖国神社の前権宮司三井勝生氏と面談し、8月末には福井県への調査で、吉備国と若狭国の関係を調べてこられました。これからの彼の執筆に熱がこもるものになりそうです。

当会の若狭会長は先の世話役会で、新春に一冊脱稿の予定で準備中とのことです。先生の冊子は何冊か出ていますが、これからどんな展開になるのか期待しています。本松一郎氏(吉備槌太郎)は「古代吉備の謎を探って」とした原稿を寄せて頂きましたが、そのワクワクしそうな寄稿文は次号の楽しみにしておきます。樋口俊介氏が締め切りぎりぎりに仮題「歩き遍路紀行文」を頂きました。相当の力作です。連載形式で次号から登場します。

- 岡山歴史研究会が10月14日後楽園の鶴鳴館で設立記念セレモニーが開催されます。当会の若狭会長も発起人の一人です。県下に多くの歴史系の活動が展開していますが、新しい岡山歴史研究会に期待が大きく懸かっています。個人参加ですので皆様個々にご参加ください。(私も発起人の裏方を担当していますので申し出ください)
- 今年は岡山県下で「おかやま国文祭」が開催されますが「瀬戸内想彫会展」が10月30日から11月7日まで備前市日生の加子浦歴史文化館で開催されます。木村玉舟氏が代表で22名の作家が「瀬戸内の魚」テーマの作品展です。皆様是非共、観覧をお薦めいたします。
- この冊子の読者の皆様へ寄稿をお願いします。近況でも紀行文でも勿論研究成果の自説でも大歓迎です。次号は正月号か新春号になる予定です。

山崎泰二

仮称“きび”考 秋季号 2010年(平成22)10月1日発行

編集委員 延原勝志 井上秀男 樋口俊介 本松一郎 山崎泰二

発行 日本先史古代研究会

会長 若狭哲六 岡山県備前市東片上771

事務局 岡山県岡山市中区桑野504-1 山崎泰二方

電話=086-276-6654 メール=top@bosaisystem.co.jp

FAX=086-276-2241